

町民の眼 (No. 1)



発行責任者 (吉岡政昭)・住所 (早来大町 1 4 1 - 4 7)

吉岡政昭の「議会の問題点」提起

もったいない！

地震で損傷を受けた早来中学校は、**修復可能 (使える) (道庁の災害査定)**

けれど修理しないで、早来小学校と新設校を作る。

それが、義務教育学校《早来学園》につながった。

町民の中に、「修復不能だから建設するのだ」と、きつと誤解があると思います。

誤解よる質問	吉岡の説明
早来中学校は、地震で 使えなくなった から、新しく 建て替える のですね？	いいえ、違います。道庁の災害査定では、【大破以下】でした。【大破以下】とは、【修復可能】。つまり、 修繕すればまだ学校として利用できる という意味です。 (R1・8・30 吉岡宛の教育庁回答)

大地震の災害建設支援のお金は出ない！

早来学園 (早来町立小学校・中学校) の建設費には、地震災害に対する補助金として国から出るのですね	いいえ、国から災害の補助金は出ません なぜなら 、早来中学校の被災状況は、道庁の災害査定では「大破以下 (補修復旧が可能な状態) で完全に崩壊しているとは判断出来ないとされました。つまり、 一般的な「新築校」と同じ扱い
早来小学校と早来中学校の一体の場合の建築費は？	建設費は 30 億円、その他 4.9 億円 計 35 億円 (全員協議会 R 1・5・8) しかし、現在は 40 億円前後で不明です。

地震後 1 週間で授業再開できた早来・安平・遠浅小学校を、壊す必要があったのか。もったいない。

疑問	吉岡の見方
なぜ、早来中学校を修理だけで終わらせなかったのか？ そうすれば、最も経済的だった。	もし、 学校が自分の家だったら 、金額の大きさを考えて、多分、 新築でなく修理の方 を選択しただろうと思います。
地震の時の 早来小学校の損壊状態 はどうだったのか。 早来小・安平小・遠浅小学校を 合併 させ、あえて、なぜ 義務教育学校の建設 したのか？	早来小学校は昭和 51 年に建てられたが、 ガラス割れやスイッチの不具合程度位 だったし 1 週間で授業再開できた。 私には、 町長の実績作りと教育長の道教育長との約束 。その他、不純な動機の動き。

早来学園 (早来町立小学校・中学校) 建設の設計の会社 (アトリエブंक) が建設資材 7,486 万円の見落とし《計上漏れ》

先の事実が報告された議事録 (4 / 28) の文言。

- ① 「**数量精査をしたところ・・・材料が増えた**」とは、「数を丁寧に数えてみたら、アトリエブंकの計算は実際より、少なかった。」という意味。
- ② 「**数量漏れを指摘された**」という意味は、「アトリエブंकは、「木下地」の「品目」も「数」も「単価」もそっくり「設計内訳書」に書き忘れていた」という意味。

町民の疑問・質問	吉岡の見方・意見
どうしてこんな、こんなミスが起こったのですか？	わかりません。普通、あり得ないことです。 1 番の疑問は、なぜ、アトリエブंकや役場の担当課 (者) が、気づかなかったのか 、という疑問です。
アトリエブंकの担当者も役場の担当者も、 それに気づかないもの ですか？	必ず、気づくはず です。 なぜなら、書き忘れたのであれば、「設計内訳書」の そこ (木下地) の部分が、白紙になっているはず です。 「設計内訳書」の様式を見ればわかります。
疑問を晴らすために、吉岡は何をしたか？	安平町に 業者から提出された「設計内訳書」の提供を求めています が、 よこしません 。担当参事は、「ない」と言い続けていますが、そんなことはありません。

なぜ、「アトリエブंक」が選ばれたのですか？

学校建設の流れ	①基本構想（株式会社 教育環境研究所に224万6千円） ②基本計画（構想同様、正式協議はなし。一部町民の独走） ③基本設計（アトリエブंक）・・・委託料4,395万6千円 ④実施設計（アトリエブंक）・・・委託料9,779万円 ⑤学校建設（建設本体・電気設備。機械設備・その他）
③基本設計の場合	プロポーザル方式での公募にアトリエブंकを含め4社が応募。ヒアリングの実施と質疑応答を経て選定委員6人による投票で高得点の会社を指名。その結果、アトリエブंकが選定された。
④実施設計の場合	5社参加の一般競争入札での落札によりアトリエブंकに決定。最近、問題になった「建設資材の計上漏れ」の話はこの「③実施設計」報告の段階での話し。

吉岡からの質問	担当責任者の回答
応募した4社のうち3社が30億円以下となっている。事前に4社に上限30億円と伝えてあったのか。しかし、アトリエブंकは、総工事費を示さず、50万円/m ² とし、概算すれば、40億円近くとなったが。	わかりません。（別な質問に対し）どちらにしても、設計会社は発注先の提示する建設費に収まるように設計業務を任されることも条件の一つと理解している。
なぜ、選定委員6人のうち5人は副町長・教育長・課長3人の他に株式会社「教育環境研究所」の所長 長澤氏が含まれているのか？	建築の専門家としての判断と地域と面識のない方の参加で公平性を求めた。

教育環境研究所の長澤氏の得点傾向に対して生まれた疑念

決定業者は、応募した4社のうち、アトリエブंकとドーコンの競い合いとなった。その際、町役場の課長3人は、異口同音に「建設コストが高い」と指摘している。

そして役場から派遣された5人の合計点は、相殺されて±0点か+1となっている。しかし、教育環境研究所の長澤氏のアトリエブंकに対する加点は、際立って偏りが大きく、その影響でアトリエブंकが選定されたとの強い印象を受ける。

	1次総合点数（うち長澤）		2次総合点数（うち長澤）		1次2次合計
アトリエ	339	66	155	95	494
ドーコン	332	59	152	84	484
得点差	+7	+7	+3	+11	+10

長澤氏に分、そっくり、"差"を作り出している。

無政府主義の【お友達町政】

及川町政に対しどんな評価をしていますか？	①政治イデオロギー的に言えば、 無政府主義的町政運営 だと思います。一見、住民の声を直接反映させているかのような手法を取っていますが、内容的には 法律や条令の【無視、違反】が目立ちます。且つ、それを正当化する運営 だと見えています。 ② お友達町政 ・・・法律無視の裏返しとして、お友達に【臨時的役職】を与えるなどして既成事実を作る。
及川町政を法令無視と指摘した理由と根拠を示して下さい。	1つ目。赤字の「 安平山パークゴルフ場 」の町営化を 議決なし で決める。 2つ目。 義務教育学校建設 決定までの過程は、 国の法律に違反しながらの運営 だった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 国の法律では【学校の設置（建設など）】は、「教育委員会の議決事項」になっているが、正式な審議や議決なしで「義務教育学校」を決定事項かのように、町民に宣伝・説明を続けた。何度、指摘しても。 </div> 3つ目。まちづくり基本条例・町民参画条例違反・施行規即違反が現在も行われています。監査委員会から【違反裁定】の結果、【仕切り直し】になった。
「お友達町政」の弊害について、どう考えますか？	一口で言えば、町長応援者の発言や動向に対して、 法令を念頭に適正なコントロールがされていない、ということ です。 「応援者追随・迎合主義」とでも特徴付けられます。 強いロマンチズムで学校建設に関わっても、建設するのは学校であって保育園や幼稚園ではない。予算決定後に次々予算の増額を図るなど、町長のコントロールが必要な部分でも結果として「ひいきのひき倒し」が進行しているように思う。 自由気ままに飛び回る孫悟空も、お釈迦様の手のひら《法令や実態》を超えることは出来ない。 そろそろ、「きんこじ」という輪っばを頭にはめて町民的制御が必要だ。
及川町政において瀧町政の流れが変わったと思いますか？	縁戚業者との関係においては、変わっていないと思います。 町の雇用関連 においては、むしろ 透明性が後退 している。瀧町政時代の「 負の置き土産 」についても、適正な対応が取られてない。一例を挙げると、追分旭の私有地に49の公共工事から出た産業廃棄物の不法投棄問題が起こった際、土地所有者に対する損害賠償交渉の途中から協議結果報告書から下駄版が消えた。結局、瀧前町長と担当課長と賠償請求者の3人だけの秘密交渉。その結果、町有地との交換が生まれたが、これは当時の副町長も知らなかった（議会答弁で）。この組織上の問題はそのまま。また、2千万円を超える損害賠償。安易に税金を当てようとする姿勢は変わらない？

